

おばけの季節【特得徳篇】

陽羅 義光

これは、タイトルだおれで、特別ではなく、得にも徳にもならない話です。
だいたい、おばけの話なんか読んで、よかったなんておもう奇特（きとく）なひとがいるのかしらん。

おばけというと、こわいというのが相場（そうば）だけれど、こわいという先入観がなければ、そうこわいものではありません。

すくなくとも、おばけのなかで、半分以上はこわくない。

ただ残念ながら、おばけというものは、人間の役に立たないもので、だから、おばけの話もなんの役にも立たないのです。

今回はほんとうにこわい、もしかすると、この『おばけの季節』に登場した二百三百のおばけのなかでも、いちばんこわいおばけを紹介します。

それでも、懐爺にとっては（金ちゃんにとっても）そんなにこわいおばけだったわけではないのは、そのおばけが人間だったころをよく知っていたからにほかなりません。

それでははじめますが、心臓のわるい方はどうか読まないよう、よろしく願います。

禿光山人 拝